

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

天理市櫟本にも、柿本人麻呂の歌塚がある。奈良市内から天理行のバスに乗り、櫟本で下車すると、和爾下神社の大鳥居が目に入る。鳥居をくぐって参道を東に約250mほど歩くと、左手に周囲が木々で囲まれた児童公園がある。

手前がゲートボール場のようで、奥がブランコや滑り台など遊具を置いた公園であるが、その西側は、木々が茂った森になっている。直径10メルールの土地が石で丸く囲われ、中央は塚状に少し高い。

塚には石の社殿や柿本人麻呂の石像が置かれている。社殿の背面には「詩歌文章歌ノ神正一位人麿大明神」とある。人麿は脇息に腕を置いて、歌を練る風の穏やかな姿で、そばには「人麿の御靈六蛙（迎える）蛙かな」などと記した石碑も

あり、大きな石の力エル
やウサギなども置かれて
いる。社殿と人麻呂像は
2005年に設置された
ものだが、なかでも歴史
を感じさせるのは、雄渾
な筆致で「歌塚」と刻ん
だ石碑だ。高さは154
センチ、奥行き31センチほどで、
背面には葛城市的歌塚と
同じようにびっしりと碑
文が刻まれている。この
歌塚碑は享保17年(17
32)に建立されたもの
で、冒頭に「大和州添上
郡櫟本郷人丸歌塚碑陰
記」とある。人麻呂の事
績を述べ、平安時代末期
の歌人藤原清輔や鴨長明
が人麻呂をしのんで塚を
訪ねたことや没後100
0年とされた享保8年
(1723)に、石見国
の柿本社の人麻呂大明神
に正一位の神階を授けら

天理市櫻本の歌塚（右端が歌塚碑、左奥に人麻呂像が見える＝2021年5月、筆者撮影）



人麻呂しのぶ歌塚